

* 台風が何度か来ました。皆様の被害はありませんでしたでしょうか？

/// I N D E X ///

- ・ ISO 情報-----○TC323 (サーキュラーエコノミー) の総会がありました。
 - ISO59014 (2次材料) の進捗です。
 - IWA42 (ネットゼロ) の最終ドラフトができました。
- ・ LCAF からお知らせ…・「LCA 初級検定」は 10 月 15 日 (土) です。
 - ・「LCA 中級検定」を行いました。
 - ・今後の LCA 研修の予定です。
- ・ 編集後記-----オンライン会議/古い歌/

■ ISO 情報 ■

○TC323 (サーキュラーエコノミー) の総会がありました。

2022年9月26日から30日まで、アフリカのルワンダ国キガリでTC323 (サーキュラーエコノミー) の総会がありました。現地とオンラインのハイブリッドだったので、ヨーロッパの人たちは現地で参加した人が多かったのですが、ルワンダは渡航注意国だったので、日本からは全員がオンラインでの参加でした。

TC323 は次の3つの主な規格をそれぞれのワーキンググループ (WG) が作っています。WG1 (ISO59004:サーキュラーエコノミーの定義、原則、ガイド)、WG2 (ISO59010:ビジネスモデルのガイダンス)、WG3 (ISO59020:サーキュラリティの測定と評価) です。この3つの規格は、足並みをそろえて一緒に発行することになっています。ISO では作業が始まってから規格を発行するまでの年数が決まっています、この3つの規格は2023年中に発行しなければなりません。これに間に合わせるためには、来年2月までには最終段階のドラフト (DIS) を作らなければならないのですが、現在は DIS のひとつ前の段階にあります。すなわち、この5月に配布されたCDに各国が付けたコメントを議論して、それを反映したDISを作る作業をこのキガリで行うことになっていました。

私はWG3のエキスパートなので、普段はWG3にしか参加できないのですが、全体をまとめるTC323の総会には参加できます。話には聞いていましたが、総会に参加してびっくりしたのは、「サーキュラーエコノミー」の定義が、この締め切り間際まで決まっていなかったということです。定義をきめるのはWG1のはずなのですが、ここがまったく機能していないようです。通常は、用語の定義はそれに関係するWGが決めるのですが、最終日の総会で議長がサーキュラーエコノミーの定義を示して各国が投票するという、私が今までに経験したことがないことが行われました。WG1では決めることができないということだと思えます。

さらに、TC323の議長から、「とにかく締め切りに間に合わせて発行して、発行したらすぐに改訂作業始める」という意味の発言がありました。彼女は、いくつかの国が反対しても、多数決で決められるものであれば、とにかく発行してしまうという意図のようです。サーキュラーエコノミーの定義の決め方にもこの姿勢が見えていました。今までのISOの議論は、ほぼ全員の合意を取り付けるという慣習だったのですが、このTC323は今までとは違うようです。

具体的な内容については、各国のコメントが反映されたDISができた段階でご報告します。

○ISO59014 (2次材料) の進捗です。

この規格は、TC323とTC207/SC5の協働開発 (JWG14) ですが、TC323の総会の機会にキガリを現地としてハイブリッドで会議が行われました。まだWD (ワーキングドラフト) の段階で、各国のコメントを募集するCDを作る作業が行われました。

この規格は、アフリカで児童労働などの不法な労働によって電子機器から再生金属が取り出されていることを改善することを目的とした国際ワークショップのまとめ (IWA19) が基礎となっています。それで、どうしても「労働環境の改善」とか「リスクマネジメント」とか、二次金属に特有なことではない企業倫理を求める要求事項が多くなります。私は、二次材料に特有ではないことは、他の関連規格を参照することにすればよいと発言していますが、賛成する人は少ないので、企業倫理がたくさん盛り込まれた規格になりそうです。

○IWA42 (ネットゼロ) の最終ドラフトができました。

IWA (International Workshop Agreement) は、国際ワークショップを開催して、大多数の賛成を得た文書として発行される文書です。上述した ISO59014 (二次材料) の基礎になった IWA19 は対面のワークショップで合意された文書ですが、今回の IWA42 (Net-Zero Guideline) は、完全にオンラインのワークショップでの文書です。

組織を対象としたガイドで、全体としては、SBTi の“PATHWAYS TO NET-ZERO”を強く意識した文書になっていると感じました。ただ、カーボンクレジットでのオフセットを認めています。これは、現在作成中の ISO14068 (カーボンニュートラリティ) との整合を取っているのだと思います。残念なことに、削減貢献量 (Avoided Emission) は定義は示されていますが、NET-ZERO の活動を示す本文中には全く取り上げられていません。

LCAF は、11 月に行われるエコバランス国際会議に特別セッションを企画しています。「Carbon neutrality and avoided emissions (カーボンニュートラリティと削減貢献量)」というセッションです。

https://www.ecobalanceconference.org/conference/2022/presentation/organized_sessions.htm
ISO14068 の議長に、ISO14068 と IWA42 について話してもらう約束になっています。日本に来ることができないので、オンラインで話すか、ビデオを送ってくる約束になっています。

エコバランス国際会議は 2 年に一度行われる LCA の世界的な会議です。15 回目になる今回は福岡で行われます。私も福岡に行きます。皆さんとカーボンニュートラリティと削減貢献量について議論したいと思います。参加費がかかりますがご参加ください。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

- ・「LCA 初級検定」は 10 月 15 日 (土) です。
過去 4 回の試験問題と解説がホームページに公開されています。受験の勉強に活用してください。
- ・「LCA 中級検定試験」は 10 月 1 日 (土) 午前に行いました。
45 名の受験者でした。初級研修の教科書としても使っている「改訂版：演習で学ぶ LCA」の内容を超えている部分もあったので、ちょっと難しかったようです。もうすぐ問題と解説をホームページに公開します。

○ (再掲) 今後の LCA 研修の予定です。順次ホームページでお知らせします。

- ・初級研修
2022 年 12 月 12 日 (月) と 13 日 (火) の午前
- ・次回 LCA 中級研修
2022 年 11 月 10 日 (木) と 11 日 (金) の午前

■■ 編集後記 ■■

この 2 週間の間に、富山と京都に行く機会がありました。私が乗車した北陸新幹線は 5 割程度の乗車率でしたが、東海道新幹線はほぼ満席でした。皆さんがマスクをしていることを除けば、ほぼコロナ前の状況です。

富山ではアルミニウムでフライパンを作る鋳物工場を見せてもらいました。人がモノを作るという原点のような作業と、先進的な表面加工が合体していると思いました。京都の方は講演会だったのですが、抗原検査を済ませたの懇親会がありました。久しぶりに立食バイキング飲み会でした。ほとんどコロナ前と同じなのですが、海外からオンラインの講演とその人を交えた討論があり、これはコロナ以前はなかったことだと思いました。彼を画面から引っ張り出して、一緒に会食できないのがとても残念でした。

立場が逆だったのは、ルワンダで行われた TC323 の会議にオンラインで参加した時です。ルワンダの現場の人たちにはコーヒータムがあり、昼食が提供されていました。こちらは一人で、パソコンの前で夕食をすませることになります。確かにオンラインは便利なのですが、会議の議事録には現れない「何か重要なモノ」が失われているように感じました。

オンラインを新しい事務所でやるが多くなりました。また、事務所に来ていただくことも増えてきました。コロナ前に戻りつつあるので、事務所での対面での相談が増えているのか、新しい事務所になったので、来ていただけるようになったのか。。。多分その両方が重なっているのだと思います。来ていただくことで「何か重要なモノ」を共有できるようにしてゆきたいと思い

ます。

前号で、”秋風が吹いたら、♪ワターシモー、タビニデルワー、アテモナイーママニー♪ としていた”と書いたのですが、働き盛りの人からも「何の歌ですか？」と聞かれました。そういえば、NHKの「ブラタモリ」で京都・大原に行ったときに、タモリが、♪キョートー、オオハラサンゼンイン♪、とロズさんだら女性アナウンサーが「知らない」と言っていました。その後の私のサーチでは、♪イイユダナ、アハハン、イイユダナ♪を知っている人は多いのですが、カエルの筑波山麓合唱団もあまり知られていないようです。いずれも、永六輔作詞、いずみたく作曲、デューク・エイセスが歌う「にほんの歌」シリーズだったと思うのですが、、会議に限らず単なる旅行でも、現場に行くということには、バーチャルでは得られない「何か重要なモノ」があると思います。それだから、人はどこかに行きたいと思うのでしょう。

ここまで書いて、今考えているのは、さて、10月にパリで行われるTC207/SC7の会議に行ったものかどうかということです。今までは12時間だったパリまで15時間もかかるといいますし、ホテル代はべらぼうに高くなっていますし、仕事もたまっていますし、、何よりも2年半も海外出張に行っていないと、めんどくささが先に立ちます。トシでしょうか、、

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)
(エルカフと呼んで(読んで)ください)
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7
アルテール池袋 608
電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL:https://lcaf.or.jp/